

# ビオトープ・イタンキ通信 第6号

NPO法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭 2015年5月1日

NPO 法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭では「ホテル再び、人にやさしい街・室蘭」を合い言葉にビオトープ作りを進めています。原始のままの海岸線、鳴り砂の浜に続く草原の一角に、今は失われてしまった湿地を復元し、子供たちが生き物と触れ合える場の再生を目指しています。

## ◆平成 27 年 春の清掃活動

3月15日、曇り空(ちょっと肌寒い)ながらも、まあまあの天気にも恵まれたこの日。午前9時からの開始時間に8人が集合。残雪も消えた池の周りや、潮見公園駐車場の崖下周辺を、ゴミ袋、火バサミを持参しながら作業に専念。

今年は昨年と比べるとごみは少なかったものの、潮見公園駐車場の崖下には、相変わらずゴミ(ポリ袋、食品類の空き袋等)がたくさん散乱しており、公然と「ポイ捨て」するモラルの低さが目立ちます。ポイ捨てを禁止させる名案はないものでしょうか。

とはいえ、ここビオトープ・イタンキでは、オタマジャクシが水面で春を待ち、湧水がチョロチョロ流れる沢にはニホンザリガニが元気に姿を見せ、日の当たる土手には福寿草フキノトウが顔を出し、逞しく生きる生物、植物に出会い、春の息吹を存分に満喫した一日でした。(田中道江)

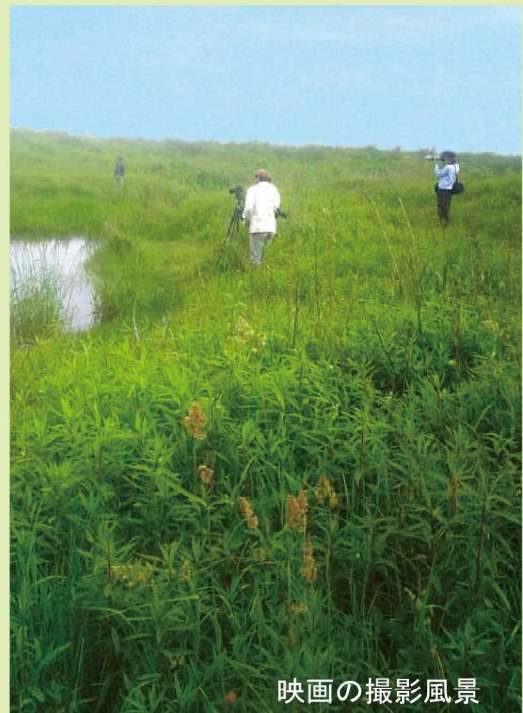


エゾアカガエルの卵

## ◆モルエラニの霧の中

「モルエラニの霧の中」は室蘭を舞台にした坪川拓史さん監督の映画です。『高校時代は部活で毎日走らされた場所で、つらい思い出がいっぱいですが、嬉しいとき、悲しいときいつも鳴り砂を歩きました。くじら半島も含めて、景観が大好きです。この場所の映画になることを知り、真っ先に参加しました。ユースホステルからの風景は最高です!』

これは、撮影の裏方で活動している友人の感想です。私も撮影シーンを見学しましたが、監督の思い入れを強く感じました。子どもの立ち位置等々、熱心に注文しています。その結果、あの美しい池や空の映像が撮れたのではないのでしょうか? ビオトープを知らなかった人達に、感動していただけたら幸いです。(菊地 敦子)



映画の撮影風景